

知事と区市町村長との意見交換会(文京区)

令和2年10月22日(木)

16時30分～16時50分

○**行政部長** それでは意見交換を始めさせていただきます。はじめに知事からお願いをいたします。

○**知事** 成澤区長、ご苦勞様でございます。今日はこうやってオンラインでの会議になります。これもひとつの新しい日常の形かと思えますし、ウィズコロナの一つの例かと思えます。

今日はそういう中で、都政も構造改革を行い、それをベースに新しい日常やサステナブル・リカバリー、これは単に昔に戻るのではなくて、持続可能な回復を目指すということを中心にしながら長期戦略、東京都としての長期戦略を描いているところでございます。

今日は現場のお声をお聞かせいただきたい。また、長期戦略も含めて東京都の在り方、または東京文京区の在り方等、伺わせていただければと思います。よろしくお願ひいたします。

○**行政部長** それでは成澤区長、ご発言をお願いいたします。

○**文京区長** 知事、貴重なお時間を頂戴して、ありがとうございます。それでは文京区から2点のお願いがございます。

東京都と各特別区が協力し合って、この間、保育園の待機児童の解消に努めてきていて、一定の成果が出てきているというふうに思います。一義的にその保育所の設置できる場所を探し、事業者と交渉し、定数の確保に努めるのは我々区役所の職員であって、それを制度として支えていただくのが東京都の役割であって、ともに力を携えてここまでやってきたと。もうあと一息だというふうに思っているところです。

これまでも保育の担い手である保育士の処遇改善ですとか、保育人材の確保・定着等を目的として、国や都の補助金を活用して様々な施策を行ってきているわけですが、東京都において、行っていただいている東京都の保育従事職員宿舎借り上げ支援事業、そして認可外保育施設利用者支援事業が、今年度いっぱい予定であるというふうに言われております。都議会を含め、各特別区、市町村からもぜひ継続をしてほしいというお願いが上がっているというふうに思いますが、今日の1点目はその点についてです。

特に新型コロナウイルス感染症の拡大以降、まさに保育園の現場は濃厚接触そのものであって、特に低年齢児では我々のようにマスクをしていることも保育士さんにはできないという中で、いざという時には感染拡大が施設内で起きてしまうという、その危険な状況を背負いながら、保育士さん達が日夜頑張ってくれているという状況にあります。

もしかすると、特に認可外等、経営の安定が非常に不安定な所については、この年度末での大量退職のような危険性すら、そんな危険な職場にはいられないということで、他の仕事に変わってしまうというような人がもし仮に出るとすると、我々が年度当初で想定を

している定数の確保すら危ぶまれる状況、さらにその危機的な状況がこのコロナによって生じているというふうに認識をしています。

そのためにも、一日も早く待機児童のゼロを実現するためにこれら二つの事業を含め、保育士の安定確保や処遇改善に向けた東京都の積極的なサポートを引き続きお願いしたいと思いますし、新たな取り組みもご検討いただければというのが、お願いの第1点です。

二つ目は、特別区における減収補填債の発行についてです。

これは多羅尾副知事への区長会役員会での要望の際にもお願いをいたしましたし、先日、この知事との意見交換で世田谷区の区長さんからも言及があったというふうにお聞きをしておりますが、世田谷の区長さんとのやり取りの中で、副知事さんから、現時点では特別区に課税・徴収権がないから難しいというご発言があり、都区協議において今後減収対策については協議をしていきたいという話だったというふう聞いておりますが、そもそも課税・徴収権がないことは承知のうえで、今回その減収補填債の発行ができるように、都とご一緒に国に求めていきたいというのが、特別区の願いでございます。

今年度、徴収猶予特例債が創設をされて、市町村民税法人分も特別区で直接起債ができるようになったということはご案内のとおりだというふうに思いますが、これと同様な仕組みを法人住民税についても行いたいと、減収補填債を発行することができないことを改善したいということでございます。

我々は、都に要望するというと、いつも都の懐具合を探って、ぜひお金くださいというお願いをすることが非常に多いんですが、今回の要望に限っては都にお金をくれと言っているのではなくて、特別区が自前で借金をするのを、東京都もこれから厳しい状況に当然なっていくわけですから、それぞれこの厳しい状態を乗り越えるために、特別区も頑張るので、その制度整備ができるように、国に向かって一緒にものを言ってくれというお願いですので、その点についてはぜひ取り組んでいただきたいなというふうに思います。

都区協議の中で議論をされることになるであろう、区市町村振興基金については、赤字債は元々使えませんし、建設債にしか対象になっていないということもあって、今回のようなケースの時には、区市町村振興基金では対応できないというふうにも思っていますので、ぜひ特別区側の意見に耳を傾けていただけるように、お願いを申し上げる次第です。

文京区からは以上の2点です。

○行政部長 どうもありがとうございました。それでは知事からお願いをいたします。

○知事 2点ご要望、また、ご意見でありました。

最初が待機児童の関連で、区長自らイクメンもなされたということで、待機児童対策は特に力を入れていただいております。

現にこの三年間で100人、46人、そして今11人というのが、こちらで把握している数字でございます。私自身も知事に就任してから、最重要課題として取り組んできたわけでございます。

そこで保育所等の整備の促進を図るために、様々なメニューを用意して支援をしてきたわけでございまして、そしてまた現場の皆様方のご労苦も実って、着々とこの待機児童の

減少ということが進んできたわけです。

今年度の4月1日時点は2,343人というのが東京都全体、この2,000人台まで減ったというのは30年振りのことでございます。

これもそれぞれ現場でご苦労いただいていること、また、お話ありましたように、様々な支援策を講じてきたことも有効に作用しているのかなど、このように思います。

よって、今後も引き続き保育サービスの拡充に取り組んでいく区を支援していくというのが、都としての考えでございます。

それからもう一つの点については、多羅尾副知事の方からお話させていただきます。

○副知事 減収補填債につきましては、本年8月、成澤区長をはじめ、特別区長会からご要望をお受けいたしました。

どうしてもまずは制度論になってしまいますけれども、現行の法制度では減収補填債を直接発行することはできないということになっているということでございます。

そこで、まずは特別区財政調整交付金の減収に関しまして、平成12年度の都区合意や今後の都区協議におきまして、協議をしてまいりたいと思っております。

ただ、今お話にございましたように、今回のコロナ感染症によります自治体財政の打撃というのは、リーマンショック時の時と負けず劣らず、あるいはそれ以上というふうに言われております。

今までの延長線上でない対応を、都と区で一緒に考えていく、こういうことは非常に大切だと思いますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思います。

○行政部長 それでは今のお話を受けまして、成澤区長からいかがでしょうか。

○文京区長 ありがとうございます。東京都の予算編成の過程ですから、その中にも関わらず、知事から非常に前向きな1点目についてお答えをいただいたというふうに、勝手に判断を私どもはいたしておりますので、大変期待を持って都の予算の発表をお待ちしたいというふうに思います。

我々も子供達、このコロナで東京の人口が全体で減少しているというような話もありますけれども、そんな中でも文京区はこのコロナ禍の中における人口動態を見ても、月別では若干減ってきていますが、年少人口はその中でもやはり増えているということもあって、年少人口が増えているということはその親世代も増えているということなので、人口が減ったからといって待機児童の問題が少し楽になるのかと思ったら、これ全くならないというのが、私どもの区の現状でございます。

引き続き、都とともに取り組んでまいりたいと思っておりますので、ぜひともお力添えいただきたいと思っております。

多羅尾副知事からお話をいただきました減収補填債については、制度の壁があることは重々承知していて、ぜひ同じ方向でこの難局を乗り越えるために、都区が国に対峙してほしいというのがその趣旨でありますので、我々は我々で国に対しても様々な要望をしますが、灰聞するところによると、区市町村振興基金で対応するんで大丈夫ですよというようなニュアンスで国に伝わっているというふうに聞いているので、そうではないんだ

ということを、ぜひ改めてお伝えをいただければありがたいと思います。以上です。

○行政部長 成澤区長、どうもありがとうございます。それでは最後に知事からお願いをいたします。

○知事 今回のコロナ禍という事態は、様々な問題点を浮き彫りにしたことかと思えます。

そういう中で東京においては、子育てがしやすいということ、また、そのことは誰にとっても住みやすい街であるという、ひとつの証になるかと思っておりますので、先ほど申し上げましたように、この保育、待機児童対策については、引き続き取り組んでいきたい。

また、様々な財政問題等につきましても、これら経験したことの無い状況で、まだワクチンがない中でどのような方策が考えられるか、また必要なのか、これら連携しながら進めていきたい、考えていきたいと、このように考えております。

また、今日はいろいろ長期戦略にも繋がる、人を育てるといのはやはり長期の考えがないといけません。そしてましてやコロナという事態が発生をしている。今日はその長期戦略と、そして来年度予算編成と、この両面から具体的なお話を伺うことができました。今後とも連携しながら進めてまいりましょう。今日はありがとうございました。

○知事 以上で意見交換を終了いたします。本日はご多用のところ、どうもありがとうございました。